

■神戸の集いから■

★「吉原治良さん具代のみなさん
おめでとうの会」開く



具体美術協会の吉原治良氏が、国際美術展「毎日新聞社主催」で大賞を、具体美術協会が神戸新聞平和賞を受賞。これを祝って新大阪ホテルで六月二十八日「おめでとうの会」が約五百人の参加者を得て盛大に開かれた。会場は大賞を受けた吉原氏の「円」の絵を背景になごやかな竹中郁氏と藤本義一氏のリレー司会で進行。一部はスピーチの後花柳有洗さんと花柳みどりさんの「曲直の舞」が「円」の抽象画の前ですっきりと舞われ、花柳芳迪一さんの「日蝕」が続いた。二部は具体の面々がスライドで動物になぞられて次々にユ

ーモラスに紹介され、モダン阿波踊りの愉快な踊りにぎやかに幕をとじた。

文化人はイサムノグチ氏、今泉篤男氏、中島勉氏、早川良雄氏、辻久子さん、中村真氏、田中一光氏、寿岳文章氏、石浜恒夫氏、小原豊雲氏など。経済人には浅井孝二住友銀行副頭取、工藤友恵大阪建物KK社長、谷口豊三郎東洋紡社長、寺尾威夫大和銀行頭取、北沢敏二郎大丸会長など、文化、経済面における吉原氏の活躍を物語るにふさわしい顔ぶれだった。

★明石女子短大開学パーティ

女子教育にデザイン技術を育てようと開学された明石女子短大の開学式が、明石市鳥羽一九八〇の同学内で六月十三日（火）に開かれた。

記念講演は上野直蔵「前同志社大学長現同学顧問」氏による「非合理と不合理」のテーマによる文学講演が行われ、福富震一氏（福富学園理事長）と福富芳美同学長のあいさつで開学式が進められた。当日は同学講師の網谷義郎氏へ「新制作協会々員」の具象画が花をそえ、模擬会場、ビュッフェ会場は晴天にめぐまれてにぎわった。金井元彦兵庫県知事、吉川明石市長、東京から日本短大協会中原理事、講談社推橋編集局長。また

近畿短大協会公江会長、神戸大学宮田名誉教授、元大阪市大滝沢教授、関学大大道教授、神戸大学高橋教授、丹羽教授、神戸女学院大鈴木教授など教育界のみなさんの他、白川渥氏、赤根和生氏、小川梢さん、小田富美恵さんなど約五百名が開学式に集まった。



神戸のアーバンデザイン⑤

新しい下町づくり

水谷頼介＋チームUR



●写真は、市街地改造の行われた大橋・大正筋のにぎわい

〈神戸新聞提供〉、右は空から見た大橋市街地改造地区

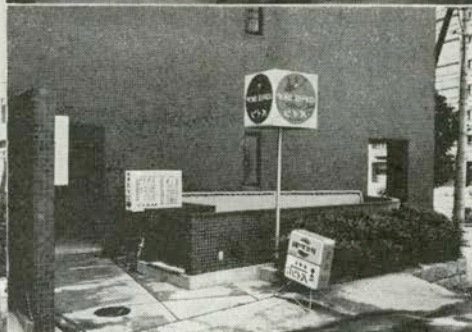
★大橋、新長田地区は、神戸ではめずらしく、活動的な下町らしさを持っているところです。お家の前からまだ静かな商店街を通り抜けて歩いて工場へ出かけ、お昼の御飯はお家へ戻り、夕方は、商店街をぶらぶらしながら夕食に帰っていくといった具合の生活が楽しめるところです。

先年、この街の中心の商店街の一つの部分が、幹線道路の建設と関連づけて日本最初の市街地改造事業という方式で再開発され、立派になりました。地元の商店街の人々が協力して、デパートもつきました。地下街もできました。

町のサイクルを回転させる一つの部分の力が急になくなったのです。この力を育てていくためには今度は、工場と住宅の再開発が必要です。公害を出さない工場の建設ということでゴム工場アパートが次々と建設されました。

次は、いい市街地住宅をたくさん建設して、元気な働き手の生活の場をひろげていかねばなりません。車の入ってこない安全なショッピングストリート、工場へスムーズに荷物を出し入れできるサービスストリートなど機能ごとに秩序づけられた道路体系、下は商店、上は住宅といった具合の立体的構成を縦横に組合せて、活気と魅力のある地下街再開発のモデルを展開していきたいものです。

水谷顕介＋チームUR
 オフィス・レジデンス
 神戸のモダンリビング⑤



●写真左は浜地ビルの全景・右上は会議室
 ●右下は地下にあるティールーム。

★本街地のなかの住いのあり方が
 どうなっていくかそれは神戸のこ
 れからの都市づくりにとって大き
 な課題です。

今回紹介するこのマンション
 は、県庁の真正面、山手幹線道路
 に面して建っている民間経営のも
 のです。便利で高価な場所柄、か
 なり高級な居住者を対象にしてい
 るものです。暖冷房完備ですし、
 給湯設備もあります。床はフロア
 リングブロックとじゅうたん敷で
 す、駐車場も勿論あります。地下
 一階、地上七階のこのビルには、
 住宅以外に、いろいろな機能が同
 居しています。一階と二階は三人
 の各科のお医者さん、病気の時を
 考えると、本当に心丈夫です。地
 下一階に喫茶店、高価な街のなか
 の住いですからスペースにどうし
 ても余裕がありませんから、お客
 さんや友人との談話などにここを
 利用できます。最上階に会議室と
 アトリエ、こんな便利なところで
 すから、単に住むだけではなくて、
 建築設計や弁護士さんなど個人の
 な仕事のオフィスにも利用できま
 すから、打合せ・会議などに有利
 です。住むのにも、楽しく、仕事
 するのにも便利という街の中の活
 動的な生活のための総合的な空間
 構成、とてもいいまいしょうか。東
 京ではこういった方向のものをや
 や仕事の側面に重点をおいて、オ
 フィス・レジデンスと呼んで建設
 されています。

映画キチガイの私は、昔はテレビが大嫌いであった。ところが「ララミー牧場」をやるようになってから、テレビがどれだけの人に見られているかを肌で感じ、それくらいテレビは馬鹿にしてはいられないと覚悟をきめた。

早いもので、去年十月一日開始の「日曜洋画劇場」もいまだまる十カ月目。そもそもこれを引き受けたのは、ちっとでも映画というものを身近かに寄せてほしい。これを見ていううちにスタアや監督の名を覚えてくださって、やがて再び映画館へ行く気になられる、そう思ったからである。

白状すると「ララミー」もそうだが「日曜洋画劇場」もロク画である。だから御らんになったあとでビヨコンととびだすけれど、実は十日以上もまえにロク画させられている。昔の映画が多いので、いくらなんでも忘れていたので、あの一分半の解説のため、私はあの映画をあらためて前もって一度見る。しかしそのプリント（フィルム）には日本文字はいっていない。それで登壇者の会話を聞きとるのに半分はカンを働かせる。メモをとる。解説すべき点にマークをつける。

それから一週間目がロク画。私ひとりに8人がスタジ

オに立ちほだかる。カメラ、セット、ライティング。その8人がこわい顔で私ひとりを見つめ、そのなかで「みなさんコンバンワ、いかがでしたか、面白かったですね」ニッコリ笑う私の顔は、はたから見るとキチガイ沙汰である。

お手紙がどしどし来る。とたんにゲイブル・ファンがふえた。ゲイブルのお墓はどこにありますかという女のからの手紙も来た。

テレビに出るときは、顔になにか塗るのですかという質問も頂く。なにも塗りません。しかしカラーとなるとバフみたいなのではたばたとやられ、これをやられるとサルシバイみたいな気になって悲しくなる。

「ララミー」を丸三年、サテライトと呼ぶショーウィンドーのガラスの中からの、まのラジオ放送を丸三年七カ月。そして目下の「洋画劇場」が十カ月目なので指名手配じゅうぶんで、どこへ行っても声をかけられ、笑いかけられ、「やあ」であり「アラ」であり「来週は何です?」ときには「あなた、よく似てる」こちらが無理にキョトンとして黙っていると「やっぱり違う」。関西へ行くと「あのおっさんやがな。あんな、あの人でっしや

<13>

淀川長治

<映画評論家>



CINEMA

テレビと映画



ろ、わっ、やっぱりそやがな、みな見てみい、あの人やでエー」派手である。

「日曜洋画劇場」はなにしろアタマ一分、アト一分半、広告四〇秒、サヨナラ五秒ときめられているので、最初からアタマにきて目がひきつりかねない。一時間しゃべっても、しゃべりきれないたちなので一分半は、ごうもんだ。そこでごねると八人が集って相談してから、しんげんな顔で「それでは、もう十秒差上げましょう」

遅刻とか欠席の大嫌いな私は時間きつちにスタジオに着く。それが好評。ただしそれだけがとりえ。サテライトのなま放送三年七カ月この毎週一回土曜の夜六時から七時を欠席したことがない。ただし都合で一回だけまあえまえからの用が約束すみだったのでロク音したのであるが、その日、ケネディ暗殺のニュース。「洋画劇場」はこれはロク画。それで自分が自分の顔をテレビで見る。見たあとは必ず毎回セイサンカリが飲みたくなる。それで、このあいだスベンサー・トレイシイの話をしたよく朝、新聞で彼の死を知りとび上った。日曜にすでにニュースとして流されていたのであるが、その夜の夕刊は全く翌朝の新聞で私は初めて知ったその口惜しさ恥づかしさ。

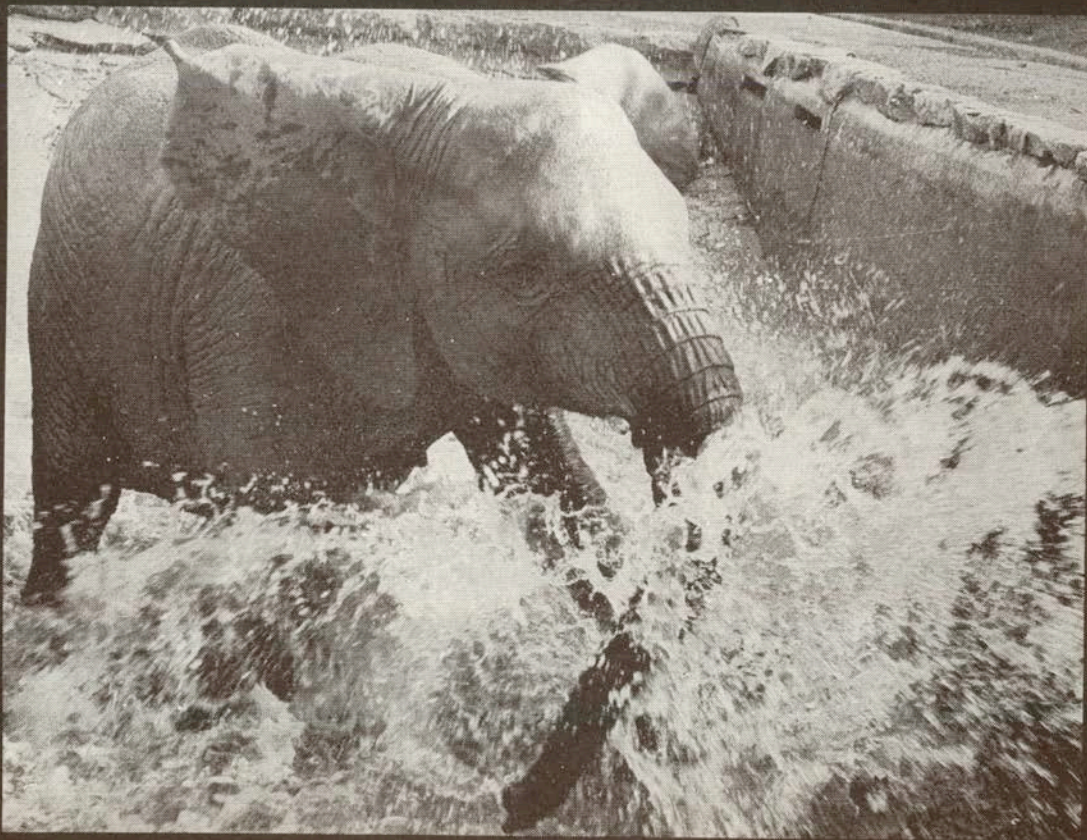
目下ロク画しているのは七月三十日のヴァージニア・メイヨの「死の谷」、八月六日のフランス映画「恐怖の報酬」このあとクーパーの「軍法会議」の録画をすませて、イングリッド・バーグマンの「追想」ウエインの「アラスカ魂」などが押しくらマンジュウぞくぞく待機。当分つづきそうである。

このテレビにくらべ近く登場のドミール監督ルグラン音楽のフランスの七〇ミリ色彩ミュージカル「ロシュフォールの恋人たち」、イングマル・ベルイマン監督の「ベルソナ」、ドーネン監督の色彩「いつも2人で」などを見ると、現在の映画感覚の進みかたにただただ驚くばかり。「ロシュフォール」はフランスの香水であり、「ベルソナ」は文学ではここまで深く描き得まい女の解剖であり、「いつも2人で」は現在と過去が一分一秒のめまぐるしさで入りまじるその映画文体のあざやかさ。「日曜洋画劇場」の善良純真なお客さまがはたして、いつの日か、「ベルソナ」のゆたかな映画描写をこそたんのうしてくださる日が来るかを期待し実は私は、「日曜洋画劇場」の数秒間のそのすきまのなかに映画の文章、映画の描写の何たるかを教えようと……汗いっぱいなのがある。



動物園飼育日記 15 亀井一成

プーラの幻想



「ママ、どうして、プーラちゃん死んだの、可哀そうネ、ママ。プーラちゃん何処へ行ったの」ヒヤリと静まり返ったプーラの部屋の前で母に尋ねる坊やの声。ジーンと私の胸をしめつける。

昭和42年6月8日早朝。同じ場所。同じ左下。同じ眠り方で突然急死した。プーラを幾回も呼び起そうとしたが、プーラは、もう戻ってはくれなかった。プーラ。お前は、もし口がきけたら、きつと母の元へ帰ってくれ、と私たちに言っただろう。あんなにあれば坊だったプーラ。太いクサリ。太い鉄柵。ひとりぼっちの夜。まだ乳房のこいしい二才のお前は、よくがまんした。いつも大きな耳が。長い鼻が。ブラシのような尾が。プーラ。プーラ可愛い動いていた。それを見た同じ二才の坊やが、プーラちゃんと名づけてくれたこと。など、どうしても信じられない突然の死に私の脳裏から生前の幻想が去らない。知恵はアフリカゾウはインドゾウより低いのではという説が多かった。しかし、お前の知能は優れていた。インドゾウは労役にも、サーカスにも使えるし、10年前の退職飼育係を記憶し涙の対面をしたとかいわれる話もあった。しかし、私の体験ではむしろ、記憶力は若いアフリカゾウの方が正確性に優れていると考える。例えばこんな実験を何度も試してみた。公休日に通勤の服のまま客をよそおって餌を与えるのである。インドゾウは私であることを、見破るまでに、かなり時間を要し、アフリカゾウ、すなわちプーラは一見して私であることを知り後を追ってきた。すぐあと、群集にまぎれこみ、しばらくたって、また戻ってくると、インドゾウは、前回同様かなりの時間を要して私であることを知る。そこで次は、群の中から名前を呼んで見た。声に対しては両者共姿が見えなくともはつきりと反応を示し、辺りを探している。このように書けば、一見ゾウは、人間的な知能が大変すぐれていると思われがちだが、動物の知能を評価する前には必ず、その動物の感覚機能について、考慮して考えなければならぬものだ。つまり、ゾ

ウの記憶は、物の型ばかりではなく、人間とは比較できないあの嗅覚の持主であるあの鼻で匂いを嗅ぎあてると同時に眼で確認するのだ。だから、平素着用したこともない服装で不用意に近寄ることは危険なことさえある。例えば宿直者が着たこともない寝まき姿で近づき事故になった例がよくある。プーラも、またそうであった。冬の夜、ストーブの調整に毎夜でかけたが、雨降の日、雨合羽のまま近づくとき、激しくおどろき、反抗さえしてきたが、私であることに気が付き、まるで、てれくさい顔をすり寄せてきたことがあった。またプーラは餌を要求する

具体的な能力を持っていた。よく見られることは、鼻を振り、そして高く伸ばしあげ、物をくれと要求するが、これは条件反射が優れていることで更に進むと、物を投げて餌を要求することさえおぼえた。例えば室内で掃除の途中、水道附近にちかづくと、急に稲ワラや、イモをその付近にはり投げてくる。このようにして巧みに水をくれと要求してきた。しかし、このように知能の優れたゾウであっても元来が野性動物なのである。餌の要求を訴えても、体調を訴える能力は、まるでないといった方が正しい。訴えるどころか、弱体を不用意に見せない本能さえある。ひと眼をさげ、休んでいるにもかかわらず、人の接近に弱っている姿をけんめいに見せまいとするいじらしい姿に哀れさを感じさせるものだ。その行為がプーラの突然の死という結果につながったのではないのか……と、自戒する私は心苦しい。これは言い逃れではない。生命ある限り死はある。しかし、理由はどうであれ、現実にはプーラはもう返ってはこない。延々4時間も要した解剖の結果は、明らかに病因は見当らなかったが、ねん膜質をおかす、一種のビールス性疾患、つまり、アフリカゾウ特有の風土的な病因ではないかという。死亡する前日、同じ餌をすっかり食べ、同じ時間に横臥し同じ場所に眠ったプーラが、今朝も、あの場所に起きあがってくる気がしてならない。あつ、プーラがと、何時までも幻想が去らない……。プーラゆるしておくれ。

●造花をつくって60年

●奥田マキさん

生きた花を創る

「わたしは造花を田舎（富山）で習いはじめましたころは、桜の花びらの一枚を何十枚、何百枚となくつくって基礎をじゅうぶんに教わりました。最近、娘が造花のお稽古に行きますので見ておりますと、初めての日に、コサージュを一つ完成させて持って帰ってまいりました。びっくりいたしましてね」と語る奥田マキさんは今年八十二才。最近眼をわるくしたが、色の品の良いしゃっきりした人。玄関に飾られた藤の花は、色、枝ぶり、そのたわわな花のこぼれぐあい、実物そのものの「生きた花」に見えて一瞬きょつとする。

◆ ◆ ◆

部屋の紫檀の机に、あやめ、百合、菊、ばら、木蓮、カーネーション、秋海棠、すみれ、洋蘭などが匂うように咲きみだれている。



マキさんは、富山で、高等小学校四年生のときに弁護士さんの家にお手伝いに行った。そのお嬢さんが造花をつくっているのを見て、教わったことが花づくりの魅力にとらえられた始まり。その器用さと熱心さが買われて造花塾をつくって二百人の生徒を教えるようになる。月謝五十銭。当時、北陸銀行へ勤めるサラリーマンより高給取りだったのである。仕立ものをすると肩がこってしょうがないマキさんも、ハサミを持って花をつくり出すとすべてを忘れた。型紙なんかいりはいらない。羽二重、薄絹の材料を手にとるとハサミで素早く花をつくりあげた。もともと勉強してみたいというマキさんの希望は神戸へ来ないかという友人のさそいがあって、開港場のハイカラな町へ行くことになる。元町一丁目。穴門亭の向いで、マッケー商会の隣りの「本宮造花店」が神戸のマキさんの職場である。この店の主人、本宮さんは、東京女子造花学校の出身。マキさんの眼には、学校出の人が作る花は習ったとおりのモノマネであきたらなかった。「わたしは、ほんものを見たものでない」と花づくりは危いし、自分がフに落ちないの

ですよ。日曜日になると布引の花壇へ出かけて、実物を一鉢買って来て朝、花の色があせてしおれないうちに作り直した。

神戸の外人は花の中に香水を入れて造花をアクセサリーとして愛用したし、当時の日本人の男性もスミレやワスレナグサを洋服につけるほどハイカラだった。外人の注文で高いものは輸入布を仕入れてその注文に応じた。神戸開港四十周年には、チリメン紙で花電車をつくったし、五十周年は富山から花を送った。その頃から大阪で大量生産の造花が初まりしだいに神戸の造花店は時流に押されて経営が苦しくなっていく。そして戦争。マキさんにとって材料とコテがない一番つらい時代である。戦後、飯田深雪さんのテレビを見て材料とコテのあるのを知ったときマキさんはまた「花がふくれた」と嬉しかった、今は娘夫婦の四谷たまきさん、宗義氏と共に暮していられる。「木蓮の花が咲くのを待って、木蓮を作ります。ぼたんや藤や、あやめなど四季の花を作る楽しさ。そしてバラや洋蘭、カーネーションなど新しい花を年寄りになっても、昔からの花だけにとらわれずにつくっているんですよ。蘭のように初めてのものをつくる時、一人で眼をつぶってもあの色とこの色をまぜるとうまく花の色がほんものに染まると、と胸のなかで長い間、考えるときが一番わたしの生きがいです」花の幻影を胸のなかに暖めて生きた花を求めてゆききびしさは、マキさんが創った花々の中に生きているようである。

（奥田マキさんの住所は尼崎市楠葉花三丁目）

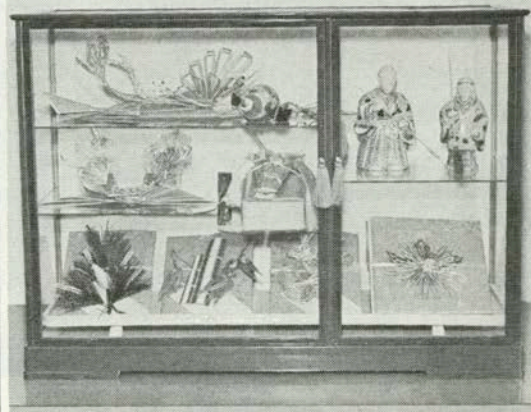


呉井隆藏
みよーや

電話神戸③三三八八〇九番
大阪店阪神百貨店三階
電話大阪④五五四八番
姫路店やまとやしき百貨店三階
電話姫路②一三二一番
衣裳部 三宮町三丁目柳筋
電話③五一六五番

幸せな二人の
えにしを結ぶ 結納儀式用品

壽



新型ケース入御結納飾

定価 ￥8,000～￥30,000

合資会社＊創業35周年

遠藤福寿堂

東店＝神戸市生田区トア・ロード高架上るTEL<39>1871～3
西店＝神戸市長田区市電菅原東入るTEL<55>2251～3

お中元に

- *バウムクーヘン
- *クッキー
- *マドレーヌ



ゴールドテンセット 1,100円より各種

北欧の銘菓



ユーハイム
コンフェクト

* 垂水店 7月 OPEN

本社・工場 / 神戸熊内町1丁目 TEL22-1164・9865
熊内店 / (市立美術館東隣)
三宮店 / 神戸三宮生田筋(階上喫茶室) TEL33-7343・0156・4314
神戸デパート店 / 長田区大橋5丁目・甲子園店 / 国鉄甲子園口駅(北口)・芦屋店 / 国鉄芦屋駅前通・堂島営業所 / 大阪堂島中町ビル地階
梅田店 / 大阪梅田地下センター・栄町店 / 名古屋栄町ビル地階・千種工場 / 名古屋千種区若水町・大丸店 / 神戸・京都・阪急店 / 神戸大阪・三越店 / 神戸・丸栄店 / 名古屋・オリエンタル中村 / 名古屋大阪国際空港・神戸鉄道弘済会・丸物店 / 豊橋・松菱店 / 津・姫路駅デパート・明石ステーションビル・南千里山店



着てりゃイイ……
ナンテ

言わないで!

綿のタッチを……

夏の色を……

マックの品で

多いに

この夏を

楽しみましょう

若人の服飾《マック》

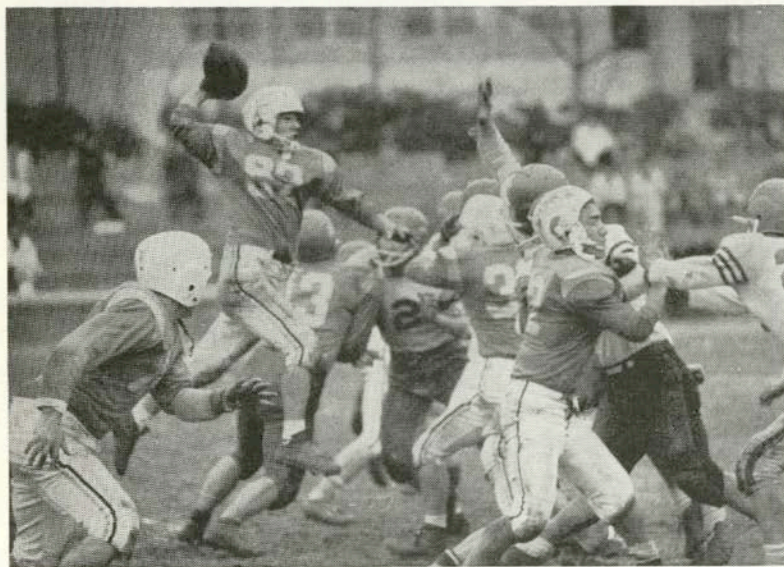
 **MAC**

★三宮本店 / 神戸センター街 ☎390895 ★トアロード店 / センター街西口 ☎390896 ★新開地店 / 新開地本通り ☎557688
★姫路店 ★京都店

Let's go!! サンサカフットボールコーナー

AMERICAN FOOT BALL

No. 8 米田 満
カメラ/林 稔



写真は昭和35年神戸ボウル<金大阪対全神戸>東遊園地にて

が、当時関西でただ一校頑張っていた関大などは軽く一蹴してしまう力を持っていたようだ。神戸とフットボールを結びつけるものとしては実はこのKRACしかないんだが、戦後の昭和27年正月から神戸ボウルと銘打つフットボール試合が毎年、東遊園地、または磯上グラウンドで行なわれている。最初は兵庫高校と星陵高校の対抗戦でスタートしたものが、その後次第に発展して関学の現役、OBを主体とする全神戸が関西各地のチームを招待するという形に進んでいる。正月のトソ気分濃厚なときにはやるんだから試合そのものは大したことはない。ところが回を重ねるといことは有難いもので、寒風にさらされながらこの試合を観て下さるファン、無慮数千?——こういった試合こそ大事にしつづけさせねばと思う。

神戸のフットボール

スポーツは「みなど」からという。日本では神戸と横浜が明治以後、外来スポーツのメッカとされている。神戸のKRAC、横浜のYCAC、両クラブができたのは開港直後の明治初期だといわれるが、両チームのインターボート対抗が本格的に行なわれたしたのは明治20年ごろ、彼らの影響で神戸、横浜を基点として各種スポーツが日本に伝播していった。

アメリカン・フットボールが日本で初めて行なわれたのは昭和9年秋で、東京の立教、明治、早稲田3大学の二世学生連合軍が横浜YCACと戦った。神戸のKRACでは少し遅れて昭和12年4月にフットボールをやり始めた



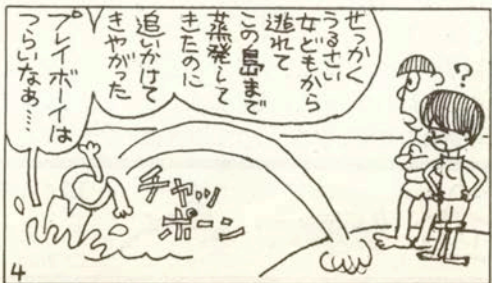
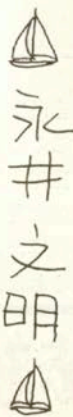
men's apparel

神戸元町 2

☎ 7885

サンサカ

只今バーゲンセール
中ですお誘い合せす
ぐご来店下さい(8月
15日まで)





Serizawa
MEN'S WEAR LADIES' WEAR

MODE-CORNER

ゴージャスな
レストランで過した
夏の日のひととき。
キュートなセリザワ
のモードで！

＊紳士服飾・婦人服飾＊

セリザワ

三宮センター街 TEL 39-4624

神戸・大丸前 TEL 33-3900

神戸・大丸前 TEL 39-1695

さんちかレディスタウン TEL 39-4626

東京・白木屋1階 TEL 211-0511

京都・藤井大丸 TEL 23-8181

姫路・やまとやしき TEL 23-1221



キュロットドレスの街着

福富芳美<服飾デザイナー>

フラワーロードの花々に
カッと照りつける太陽。
オレンジ色とグリーンの花が
アフリカタッチで描かれた
サラサ模様のコットン地を
キュロットにデザインした
ミニドレスは“太陽を着る”ような
真夏の楽しいドレスです。

今までキュロットは山や海辺で
愛されてきたリゾートウェアの
シルエットだったものが
スポーティな若い今年のモードに
フィットして、カジュアルな街着に
きこなされるようになりました。

白い大きなイヤリング。
着こなすにはやはりアクセサリも
ややオーバーな感じでモダンに……。

8月のマドモアゼル

脇 明美さん<20才>

今年、松蔭短大家政学科2年生の脇さんは
スラリとしなやかなスタイルに長い髪
ミニスカートもなかなかよくお似合いのお嬢さん。
お料理をつくるのが好きで
ケーキづくりはお得意とか……。

塩屋に住む彼女は
毎年、海の季節の到来を待ちこがれているそうだ。
泳ぐとゴキゲンだという海っ子も
アンディーウィリアムスが
ごひいきだというロマンチストだ。

カメラ／赤松慶三郎



神戸っ娘の人気を集める!!
ベニヤサマーセール
Beniya Summer Sale



ベニヤ

三宮センター街 PHONE 39・5528
さんちか(レディスタウン) PHONE 39・1204

LONDON———PARISの街角から

〈カーナービー通り〉 〈モンテニュー通り〉

松谷 彰 久

〈ベニヤKK社長〉



写真左はパリ・シャンゼリゼ通りの近くの
モンテニュー通りにあるクヌス・チャンド
ールの店 右は筆者
写真下はロンドンのカーナービー通りの若
いロンドンっ子たち

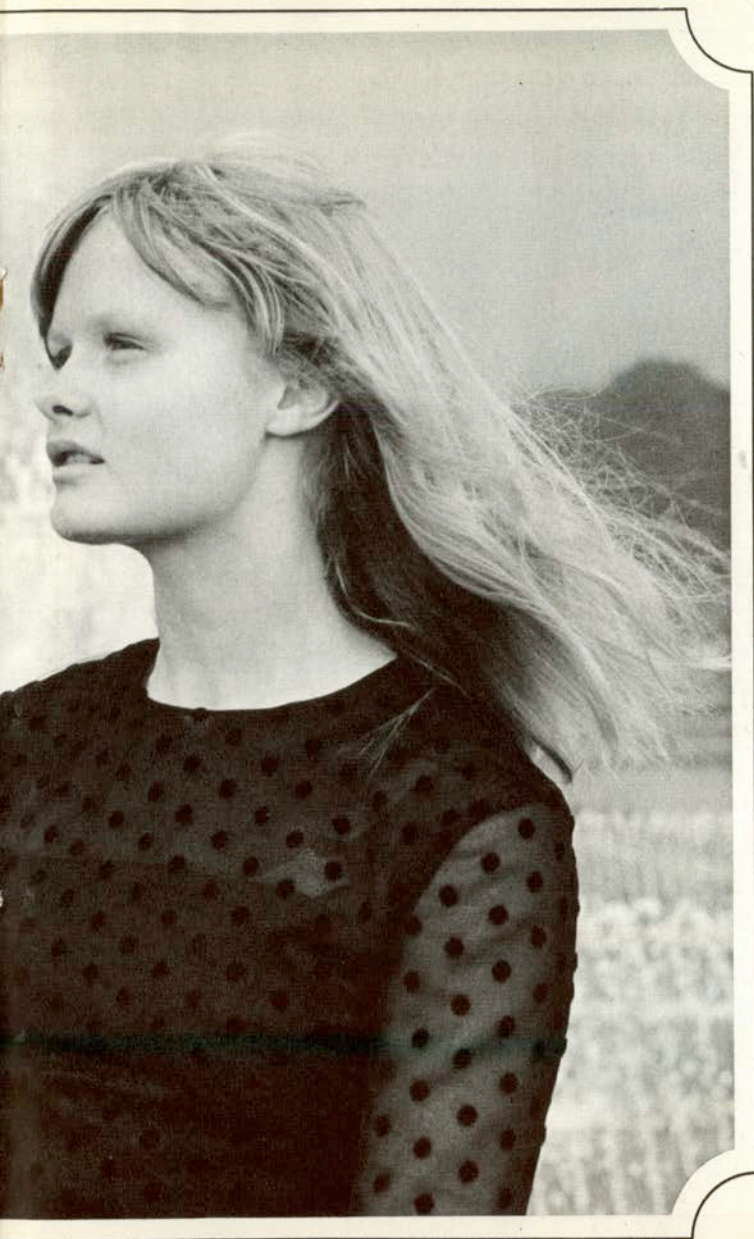


紀元前何百年の昔に、すでにパリのベルサイユ宮殿にできていたトータルルーム室は、壁も天井も柱も、そして調度品もすべてが同じ色にまとめられ、ジュエタンからテーブルに至るまでがラベンダーならラベンダーに、グリーンならグリーンにと、各室ごとに美しいカラクサと彫刻で適当な陰影を創り出し、その中でレースやシルクの服に、モールの飾りと宝石を散りばめた王室の人や陪臣たちがワルツを踊ったのが目にかぶ……。

その時代から培われてきたモードに對するすばらしい感覚、それを受け継いできた現代の服飾には、やはり伝統のゆかしさと基本に深く打ち込まれた技術と批判力、選択力がひしひしと感ぜられる。日本の呉服のように、何千年もの歴史をもつものと同じゆかしさが、パリのフアツションにもある。

「明治百年」といつている日本の洋服界には、やはり底の浅さと物真似にも似たわびしい何かがある。日本人の体には、まだこなしきれない深いものがある。服飾とは自分自身が自分の生活環境と自分の個性からにじみ出した、人としての一番手近で最高の芸術でなければならぬ。これはデザイン界でも同じことが言える。

街角に建つガス燈や看板、両側に並ぶ家々、それらのすべてが、欧州の国々の古い歴史と伝統によつて自然に生れてくるものであり、街の人々もその古さのすばらしい芸術をなんとかとどめておきたいと願ひ、又それを誇りにしている。街のムードは家の中の生活にも浸透していき、服飾にもしみこんでいく。家具やカーテン、窓わく一つにも良き古さがあるからこそ、そこに生活する人々は芸術を愛し理解し、より楽しい人生を発見する。「ローマは一日にしてならず」とはよくいった言葉である。



〈ヌイス・シャトールクリスタルグラス〉



トランスグローバル

本社★神戸△三三二六〇三 営業所★東京・名古屋
 特約店★クロス★トア・ロード△三九一七八一

pour votre
 table de fête
 Langenthal
 «château»

AUGUST ●

火 1 15
 水 2 16
 木 3 17
 金 4 18
 土 5 19
 ⑧ 6 20
 月 7 21
 火 8 22
 水 9 23
 木 10 24
 金 11 25
 土 12 26
 ⑧ 13 27
 月 14 28
 火 29
 水 30
 木 31

SEPTEMBER ●

金 1
土 2 16
⑩ 3 17
月 4 18
火 5 19
水 6 20
木 7 21
金 8 22
土 9 23
⑩ 10 24
月 11 25
火 12 26
水 13 27
木 14 28
金 15 29
土 30



<スイス・シャトーティセット>

ELDONIAN

乗馬用品専門ショールーム TEL 二二—二六〇三

TAZU

アクセサリーと服飾の店 神戸市生田区三宮本通

TEL 三九—四七八〇

エキゾチック・コウベ<5>

マリンナ・フリヴォルトさん<19>は今年カナディアンを卒業。9月よりアメリカの大学へ通うために本国へ帰り、美術の勉強をしたいという。グラフィックデザイナー志望の明るいアメリカ娘です。





クールなタッチの
夏の日の装いは
ハイセンスの
カセットで!

高級お仕立て・プレタポルテ
舶来生地・アクセサリー・雑貨
*ジョリー

カセット

神戸・三宮・大丸前・市電筋浜側
TEL. 神戸 39-4992